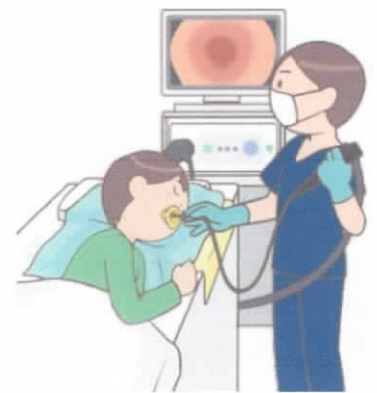


胃カメラについて

検査室だより 2023.9

前回のテーマはピロリ菌でした。胃の粘膜に感染し、胃炎などの原因となる微生物です。ピロリ菌の有無を調べるために内視鏡を使う方法をご紹介しましたが、今回は当院で実施している内視鏡検査についてお話します。

上部消化管内視鏡検査、いわゆる胃カメラですが、当院では口から挿入する内視鏡を使用しており、鼻から挿入する内視鏡を採用していません。胃カメラがのどを通る時の苦痛を不安に思っている方には、希望があれば鎮静剤（眠たくなるお薬）を使用して楽に検査を受けていただくことも可能です。（堺市の胃がん検診など、条件によっては薬剤が使えない場合もあります。また、鎮静剤を使用した場合、その日は終日自転車や車などの運転を控えていただく必要があります。）



胃カメラは口からのどを通り、食道、胃、十二指腸へと進み、十二指腸の一部まで到達したのち引き抜いてきます。その間に、腫瘍や潰瘍、ポリープといった病変がないか、粘膜に炎症などの変化が見られないか等をくまなく観察し、必要に応じて粘膜の一部を採取して（生検）組織を詳しく調べたり、ピロリ菌の有無を調べたりします。

気になる検査の費用ですが、保険の負担割合により異なりますが、3割負担の方を例に説明します。検査自体は約4500円。追加で胃などの粘膜の一部を採取して、組織の検査をすると最大で約10000円。この他に、診察料や薬剤費、胃の粘膜を観察しやすくするために青い色素を散布した場合や、医師が必要と判断してピロリ菌の検査を追加した場合など、それぞれに費用が発生します。

何らかの症状がある（みぞおちが痛む、黒い便が出る、貧血を指摘されたなど）場合はもちろんですが、40歳以上で今までに胃カメラを受けたことがないという方にも一度検査を受けられることが勧められます。過去に胃カメラを受けてポリープや萎縮性胃炎などを指摘されている場合も定期的な経過観察が望まれます。

お気軽に医師・看護師までご相談ください。